

議会改革特別委員会検討内容（令和8年9月10日）

特定事件「議会改革について」、検討事項の各項目について、項目ごとに意見交換を行いました。

各項目についての各会派の意見等は、次のとおりです。

《通年議会について》

草加自民党・無所属の会	SOKA新政	公明党	提案会派 市民共同	立憲民主党
今後検討する機会があるかは不明だが、今回の調査内容を引き継げたらよい。	説明を受け、検討しなければならないことが多々あると感じた。委員会で議論したことを今後につなげることができたらよい。	改選後も議論、調査研究が行えたらよい。	今回で調査を終了することについては了。	改選後も議論する機会があれば、議論することは賛成。

→協議の結果、「通年議会について」は今回で調査終了することを決定しました。

《議員定数について》

提案会派 草加自民党・無所属の会	SOKA新政	公明党	市民共同	立憲民主党
これまで長い時間をかけて議論してきた中で、定数の基準を人口1万人に1人とする当初の提案から、現在の人口と定数で割り出した数字による基準をつくることなら検討の余地はあるという会派もあった中で、今期中はまともな結果なかった。このまま調査終了ではなく、当初の提案内容で採決を行ってほしい。	現状維持の考え方は変わらない。改選後に再び何らかの形で議論し、これまでの議論等を踏まえ、なるべく短時間で結論が出せればよい。	全国の同規模人口自治体議会の定数は平均30人で、草加市より人口の少ない上尾市や春日部市も定数30人としており、草加市が決して多いとは思わないので現状維持がよい。また、定数削減は市民の少数意見が議会に届かなくなるというデメリットもある。定期的に定数を見直すことに異論はない。	議員定数とはどうあるべきか考える機会となった。大学教授からの参考意見聴取や委員会外では町会連合会との懇談もあった中で、数にこだわるというよりも、より働いてもらえる議会になってほしいというメッセージを受け止め、議会改革の必要性を改めて感じた。	改選後に議論する機会があれば、また議論していきたい。

→意見交換終了後、提案会派からの「議員定数の基準を人口1万人に1人とするについて採決されたい」との意見について、異議がなかったことから、直ちに採決を行ったところ、賛成少数で否決されました。

→協議の結果、「議員定数について」は今回で調査終了することを決定しました。

《特別委員会における質問時間について》

提案会派

草加自民党・無所属の会	SOKA新政	公明党	市民共同	立憲民主党
試行して、時間配分は再度検討したほうがよいと思う一方で、試行内容を意識して質問がなされており、無駄のない委員会運営になっていたと感じた。できれば、この結果を過去の事例として引き継ぎ、今後、検討の機会があればよい。調査終了でよいが、この結果を次に生かしてほしい。節度ある委員だけとは限らないので、ある程度は時間を決めたほうがよい。	全体が委員会の進行に協力的になり、良い取組になっていた。タイマーを操作する議会事務局の負担感が不明なので、今後、検討の機会があれば、課題についても議論することで、より良い委員会運営になると感じた。	実際の時間が明らかになったことは参考になった。一方で、委員会審査が3日で終わっていることを踏まえて、現状維持でよい。	可視化することは議論を闊達にしていこうと感じた。一方で、実際に運用した場合、質問時間が長いほどよいとなってしまうたら、本来の趣旨からそれでパフォーマンス化してしまうおそれがあると感じたが、試行した意義はあった。	時間配分については検討の余地があると感じたので、改選後に議論する機会があれば、また議論していきたい。

→協議の結果、「特別委員会における質問時間について」は今回で調査終了することを決定しました。

また、令和8年9月16日（水）の9月定例会最終日に委員長報告を行うことを決定しました。

以上をもって、特定事件「議会改革について」の調査を終了しました。